

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	工藤綾乃 (くどう あやの)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2024 年 5 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	2024 年度人間・環境学会第 31 回大会 (水戸) 水戸市民会館
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	工藤綾乃
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	事業が一体化した就労支援施設における 障がい者がひとりでいる場面に関する考察
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>就労継続支援 B 型事業に加えて、児童発達支援・放課後等デイサービスの事業を運営し、未就学児から成人までの障がい者児にケアを提供する福祉施設を対象に、2024 年 2~3 月に調査を行なった。このような場での障がい者がひとりでいる場面に着目し、その場を構成する環境要素について整理・分析した研究報告を 2024 年度人間・環境学会第 31 回大会 (水戸) にて発表・報告した。</p> <p>【発表概要】</p> <p>近年人口減少に伴い、多様な利用者を一体的にケアする共生型福祉施設が増加している。また、多様なニーズに対応するため複数の事業を一体化する際に、飲食や軽作業などの仕事と役割を創出し、障がい者の就労支援を行う事例が多い。本研究では、事業の一体化により開かれた障がい者の就労環境下で利用者がひとりでいる場面に着目し、場を構築する過程とその場を構成する環境要素を明らかにすることを目的としている。調査方法は、施設代表者へのインタビュー調査と、6 日間の行動観察調査である。</p> <p>調査の結果から、ひとりでいる場面の環境構成要素は、人的要素・物的要素・規範的要素に分類された。延床面積が小さく、他者の視線を遮断できるトイレや更衣室では、長時間籠る行動がみられ、延床面積が大きく、多人数が集まる共有空間や廊下では、室の角や壁、家具の配置を活用し、隅に身体と目を向ける「すみこもり」行動がみられた。今後は 2 人以上でいる場面にも着目し、用途の複合形態や一体化する事業が異なる施設での調査を行うことで、複数事後が一体化した就労支援施設における環境づくりや環境の使いこなし方を明らかにしていきたい。</p> <p>【発表の成果】</p> <p>このような共生型福祉施設では、交流や共在の場面に焦点を当てられることが多いため、ひとりである場面に着目した点を評価いただき、本研究の意義を確認することができた。一方で、「ひとりである」ことの意味や意義、研究における定義に関して多様な視点から質問をいただき、今後の研究において重要視すべき事項を確認することができた。</p>	

※無断転載禁止